

「海と陸との連続性・護岸」事業計画書（案）

【基本計画】（基本計画書案 P21）

現在の三番瀬は、海と陸との変化に富む自然なつながりが護岸によって断ち切られています。また、直立護岸の一部には、鋼矢板の腐食、老朽化、高さの低下が認められます。

このことから、海と陸との自然な連続性を徐々に取り戻し、人々と三番瀬とのふれあいを確保していくことが重要です。また、安全性が保たれていない護岸については、必要な安全性を早急に確保することが必要です。

そのため、安全性が保たれていない護岸については、安全かつ生態系に配慮した護岸改修を早期に進めるとともに、護岸の海側及び陸側における自然再生への取組の検討、親水スポット等の整備により海と陸との連続性の回復を目指します。

【事業計画】

計画事業

事業名	事業内容
市川市塩浜護岸改修事業	<p>全体事業量(長期目標)：L = 1700m(塩浜2丁目、3丁目地先) 5ヵ年整備目標：L = 約 900m(塩浜2丁目地先)</p> <p>海岸保全区域に指定した塩浜2丁目、3丁目地先の護岸については安全性の確保を図るとともに海と陸との自然な連続性を取り戻すため、生態系にも配慮した、高潮防護の護岸改修を進めます。</p> <p>当面、老朽化が著しい2丁目地先のうち、約900m間を先行させ、平成22年度ごろの完成を目指します。</p> <p>なお、残る区間については、5ヶ年整備目標区間の完成後、遅滞なく着手するよう努めます。</p>

< 参考 >

関連事業等

(円卓会議の「三番瀬再生計画案」における提案事業)

項 目	検討テーマ・内容
塩浜 3 丁目地先 護岸	・人が自由に海域に降りられない構造
市川市所有地前 面における環境 学習・自然再生等	・環境学習・研究施設の設置
	・自然再生 ・伝統工法等による土留め ・前面に砂をつけていくことによる海と陸との自然な連続性 の回復
塩浜 2 丁目地先 における人と三 番瀬の適切なふ れあい	・遊歩道、三番瀬らしい植栽等 ・緑道と展望機能 ・干出域や砕波帯の実験、海に降りられる護岸構造

注意

「計画事業」とは5カ年間に取り組む事業である。

「関連事業等」とは、円卓会議の「三番瀬再生計画案」において提案のあったもののうちこの計画事業に関連の深い事業や事項で、現時点では確定していないが、今後県が検討・調整を進めていくものである。